

■第4回 100人アンケート

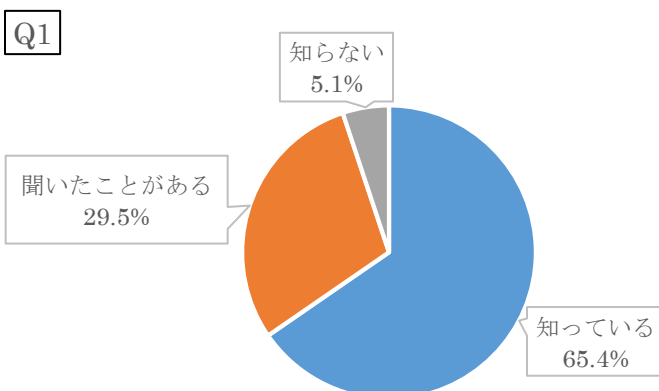
- ・回答者数 78名
- ・性別 女性 52名(66.7%)、男性 26人(33.3%)
- ・年代 20歳代 2名(2.6%)、30歳代 3名(3.8%)、40歳代 7名(9.0%)、50歳代 16名(20.5%)、60歳代 18名(23.1%)、70歳以上 32名(41.0%)

地球温暖化による気候変動に関して伺います

Q1. 2015年にパリ協定が締結され、CO2排出量の抑制により気温上昇を2℃ではなく1.5℃に押さえようと世界各国が2020年以降の「温室効果ガス削減・抑制目標」を定めることが求められ、さらに、長期的な「低排出発展戦略」を作成し提出する努力が求められています。

このような動きを知っていますか。 (n = 78)

項目	数	%
知っている	51	65.4
聞いたことがある	23	29.5
知らない	4	5.1



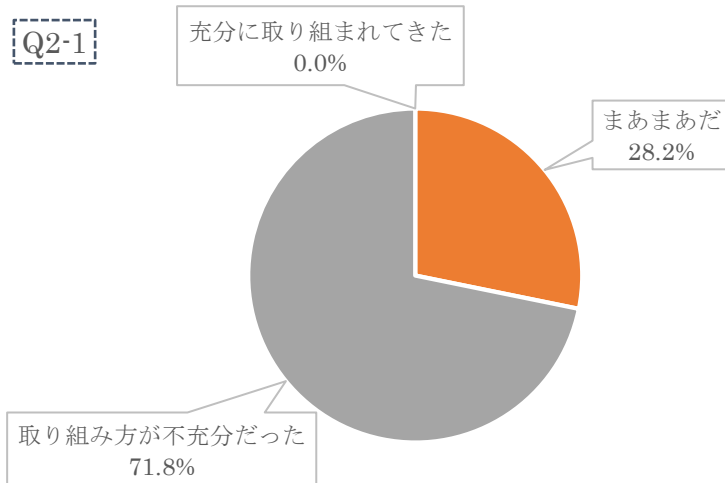
「知っている」と「聞いたことがある」を合わせると約95%になります。異常な気候を消費者が体で感じていることが関心の高さにつながっていると考えます。正しい情報提供の重要性を改めて思います。

Q2. 地球温暖化による気候変動への対策として、これまで多くの市民団体がライフスタイルを変えるなど温暖化が進まないように様々な活動を提案してきました。

Q2-1 これらの活動が充分に取り組まれてきたと思いますか。

(n = 78)

項目	数	%
充分に取り組まれてきた	0	0
まあまあだ	22	28.2
取り組み方が不十分だった	56	71.8

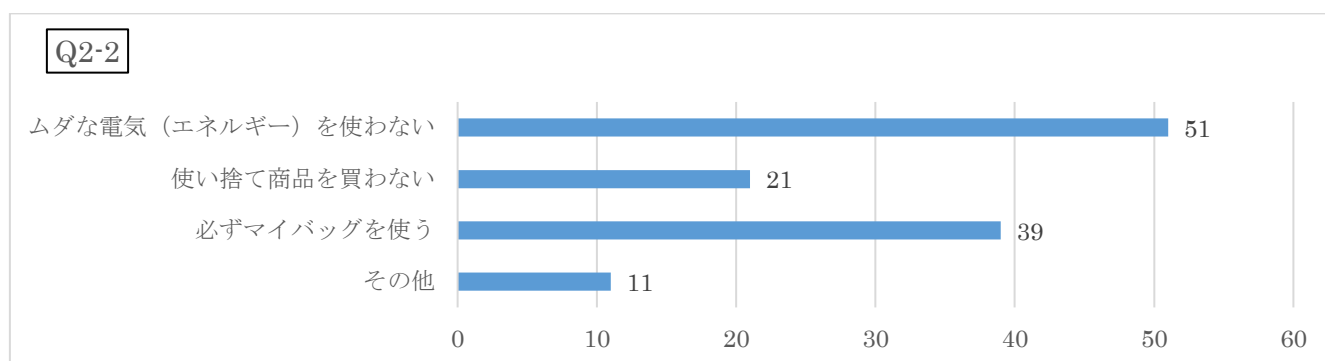


「取組み方が不十分だった」を選んだ人が約7割で、「十分に取組みられてきた」と回答した人は一人もいませんでした。市民団体等の活動の反省も含め、さらに活動を強めていきたいという決意も感じます。

Q2-2 あなた自身はどのようなことを実践してきましたか？

(n = 78)

項目	数	%
無駄な電気(エネルギー)を使わない	51	65.4
使い捨て商品を買わない	21	26.9
必ずマイバッグを使う	39	50.0
その他	11	14.1



複数回答された方が多く、回答数の合計が122になりました。6割以上の方が「無駄なエネルギーを使わない」と回答しています。また、半数の方が「必ずマイバッグを使う」と回答しています。

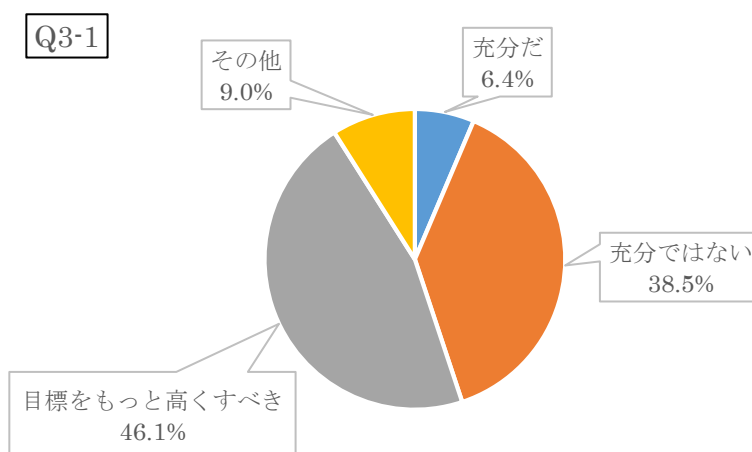
「車を使わずに公共交通を利用」「3Rを心がけている」「実践しているがなかなか徹底できない」など、いろいろな意見をいただきました。別掲の「Q2-2の主な意見」をご覧ください。

Q3. すでに、気候変動による影響が大きいとされる災害が発生しています。日本の削減目標値は2030年までに2013年比で26%削減です。先進諸国の多くは1990年を基準年としていて、40%～57%の削減目標です(米国は2005年比28%減)が、日本は排出量のピークである2013年を基準年としています。

Q3-1日本の目標設定をどのように感じていますか。

(n = 78)

項目	数	%
充分だ	5	6.4
充分ではない	30	38.5
目標をもっと高くすべき	36	46.1
その他	7	9.0



約46%の人が「目標をもっと高くするべき」と回答しています。また、日本の目標は「十分ではない」と回答した人は約38%で、合わせると8割以上の人が現状に満足していないと考えています。昨年は、想定外の大きな災害が続けて発生しました。日本の政策変更を強く望みます。

Q3-2 2～4を選択された方々に伺います、目標値はどのように設定すべきと思いますか。

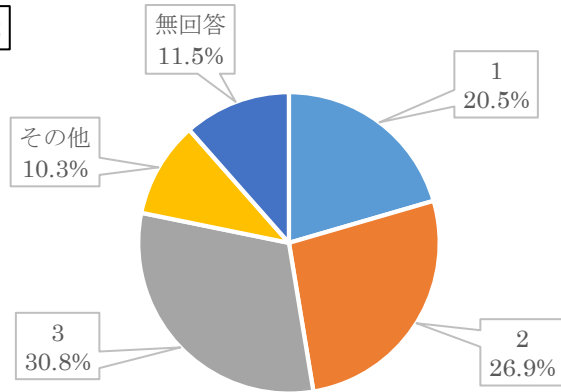
2～4を選択した方々だけでなく、全員回答してくださいました。

(n = 78)

項目	数	%
1	16	20.5
2	21	26.9
3	24	30.8
その他	8	10.3
無回答	9	11.5

1. 2030年までに1990年比26%削減
(2013年比では約35%削減)
2. 2030年までに2013年比50%削減
3. 2030年までに1990年比50%削減
(2013年比では約56%削減)
4. その他

Q3-2



1位が「2030年までに1990年比50%削減」でしたが、2位も3位も20%台で大きな違いはありませんでした。削減率を見るだけでは、具体的にどのような社会になるのか想像するのが難しいことは確かです。もう少し具体的に示す必要があると考えます。その上で、消費者一人ひとりが何をすべきか考え、実践する時が来ています。当NPOは、多くの方々と連携しながら、活動を進めていく所存です。

以上